
小人と巨人

夕焼け

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

小人と巨人

【Nコード】

N83150

【作者名】

夕焼け

【あらすじ】

彼はかつて小人だった。ある日彼は、巨人となった自分に気づく。それは喜劇でも悲劇でもない。ただの、よくある情景だ。

彼はかつて小人だった。

だから自分と同じ姿かたちをした小人達が好きだった。

彼は小人達と戯れながら毎日をそれなりに楽しく生きていた。

成長なのか、突然変異なのか、気づかぬうちに彼は巨人になっていた。

気づいた時にはもう巨人になっていた。

いつものように、何の気なしに踏み出した足が、小人の友達を踏み潰して大怪我をさせた。

そこで初めて理解したのだ。

自分もはや小人ではないのだと。

巨人は小人が好きだった。

巨人が小人に手を差し出せば、彼らはその小さな手で巨人の指を握ってくれる。

だから、巨人になった彼だけど、それまでと変わらず小人の村で過ごす事を選んだ。

次第に、巨人の犠牲者が増える。

細心の注意を払ってるつもりでも、ついふとした拍子に、踏んづけてしまう。

一瞬でも気を抜くと、その巨大な足の下に潰れた小人がいる。

小人達は、巨人を愛しながら恐れるようになる。

愛と恐れが高濃度で混ざる時、それは憎しみに形を変える。

愛するものから恐怖を与え続けられる事に、人は耐えられない。耐えられなくなった時、その情念は強い憎しみと嫌悪と拒絶に変わる。

彼らは思い思いの形で牙を剥く。

巨人のつま先に這い登り、必死で傷を刻もつとする。けれど硬い鱗に覆われた巨人の皮膚に、彼らの爪や牙は通らない。

巨人は出来るだけ上手に笑顔を作って、小人達に向かって手を伸ばす。

小人達はその手を恐れ、巨人の笑みを余裕の笑みと見て取り、巨人が痛みを感じてないと考えて、余計なおさら強く切りつける。

巨人が痛みを感じてないと、小人達は本気でそう思っているのだ。傷と血と涙だけが痛みだと、小人達は本気で信じているのだ。

村を出るべきなのだ。

彼を迎え入れてくれる巨人の村がこの世界のどこかにあるのか、そんなのは分からない。

でも、ここではないどこかへ向かって、巨人はその巨大な足で歩み

だすべきなのだ。

今彼に必要なのは、涙でも弁明でもなく、歩み出す勇気なのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8315o/>

小人と巨人

2010年11月10日22時08分発行